

第2回滝川市部活動の地域移行に関する連絡会議会議録（要旨）

開催日時		令和6年12月16日（月） 午後6時00分から午後7時30分まで
開催場所		滝川市役所3階301・302会議室
出席者	種目団体代表者	滝川バスケットボール連盟 木下秀明氏 滝川軟式野球連盟 渡辺禎氏 滝川ソフトテニス連盟 斎藤寛氏 滝川サッカー協会 長田朋勝氏 滝川陸上競技協会 安樂良幸氏 滝川卓球連盟 経塚百合子氏 滝川バレーボール協会 菊田健二氏 滝川パドミントン協会 佐藤勇大氏
	市内中学校校長	江陵中学校 橋本展晴 校長 明苑中学校 渡辺 禎 校長 開西中学校 濱本有未代 校長
	市内小学校校長	滝川第三小学校 加藤 敦 校長 （小学校器楽・スクールバンド検討部会部会長） 東小学校 中川浩之 校長 （小学校ミニバスケットボール・合唱部検討部会部会長）
欠席者	種目団体代表者	滝川音楽協会 鷺尾昌法氏 滝川美術協会 三宅 敬氏
市教育委員会職員		諏佐教育部長 福田教育部指導参事 佐藤教育総務課課長 杉山学校運営課課長 運上社会教育課課長 神馬教育総務課課長補佐 湯澤教育総務課係長

1 開会

2 教育部長挨拶

- ・部活動の地域移行について、当市ではできるところから、部会での協議検討など少しずつ進めている。
- ・課題も多いが、関係の皆様のご協力をいただきながら少しずつ進んでおり、その進捗状況と今後の予定について報告したい。
- ・国の動きや令和7年度の予定についても報告する。
- ・本会議は中学校の部活動がメインだが、本日は小学校の進捗状況についても報告したい。
- ・この会議の目的として、部活動の地域移行の市内での動きについて共通認識を持ち、将来的には各種目で協議を進める中で、共通課題の調整などさせていただけたらと考えている。

3 部活動の地域移行の取組状況の報告と今後の予定について

神馬教育総務課課長補佐から次第（１）について資料をもとに説明

- ・ 資料No.1 「令和6年度中学校の取組状況」
- ・ 資料No.2 「滝川市における部活動の地域移行に関する令和7年度の方向性について」

次第（２）について、

福田教育部指導参事より全体的な報告

- ・ 結果の報告としては、神馬教育総務課課長補佐から説明があった資料No.2に記載のとおり。
- ・ 経過としては、部活動自体が終了するもの、新しい形で活動するものがある。
- ・ 一番の課題は、指導者の確保。
- ・ 中学校に繋げていくことが重要な役割。
- ・ 小学校の地域移行は、中学校に先駆けて実施する方針で、1年前から検討部会を立ち上げ協議を進めてきており、協議の視点は主に3点、種目によって異なる在り方の検討、指導者の確保、運営体制で、その他施設整備や道具、課題や今後の方向性、保護者への周知等を話し合い、関係団体の協力を得ながら、少しずつ進めている状況。
- ・ 部会は3つで、一つ目はミニバスケットボール部会、二つ目は器楽・スクールバンド部会、三つ目は合唱部会となっている。

滝川第三小学校加藤校長（器楽・スクールバンド検討部会部会長）より報告

- ・ 教育委員会、滝川第一小学校・西小学校・滝川第三小学校の校長で協議をしてきた。
- ・ 滝川第一小学校と西小学校にある器楽部は今年度いっぱい部活動を終了する。
- ・ 西小学校においても「必修クラブ化」検討の余地を残しており、活動の場が確保される可能性はある。
- ・ 部会は、滝川第三小学校のスクールバンドを中心に協議している。
- ・ スクールバンドの現在の部員は、6年生2人、4・5年生は10人を超える状況で、4・5年生の活動を継続することが課題。
- ・ 課題解決に向け、部会での検討や滝川吹奏楽団の代表への相談などを行い、最終的に指導者が見つかった。
- ・ 運営面は、滝川第三小学校スクールバンド保護者会（後援会）に対し、部会からご協力の依頼をしている。
- ・ 4月からの新たな体制に向かえるように詳細について保護者会（後援会）と相談しながら進めていきたい。

東小学校中川校長（ミニバスケットボール・合唱検討部会部会長）より報告

- ・ 合唱部は部員12名で、令和6年度3月で合唱部としての活動を終了する方向で進めており、保護者と子どもたちには説明を行い、理解を得ている。
- ・ 先日、最後の定期演奏会と滝川市議会議場での演奏を無事終えた。
- ・ （進学先の）明苑中学校に合唱部がないため、市内既存団体のリサーチを進め、クローバーという合唱団を保護者や子どもたちに紹介する形で進めている。
- ・ ミニバスケットについては、滝川第三小学校・西小学校・東小が部活動として活動しているが、西小学校は当初から単独で地域移行を進めることとなっていたため、滝川第三小学校と東小学校

を中心に部会で検討してきた。

- ・部員数は3年～6年生で60名以上で、6年生が抜けても50名以上いる状況だが、部活動の指導者である教員は異動対象となっており、部活動の指導者の確保が難しい状況。
- ・部会の協議の中では、児童数の減少と明苑中学校への進学という環境を見据え、滝川第三小学校と東小学校の合同チームが持続可能で最適ではないかということで、教育委員会から滝川バスケットボール連盟に対し指導者の要請をしながら進めてきた。
- ・先週の金曜日に、滝川バスケットボール連盟から教育委員会へ新チーム結成の提案をいただき、非常にありがたく思っている。
- ・この計画を教育委員会や保護者と共有し、詳細を詰めていきたい。
- ・地域移行の課題が大きく3点あり、指導者の確保の難しさ、財源・運営組織、支援体制で、保護者の不安の解消のために明確なスケジュールを提示することやきめ細かな情報提供が不可欠だと思っている。子どもたちが安心して地域移行を受け入れられるような体制作りが大切。

4 質疑応答

(滝川バドミントン協会佐藤氏)

- ・バドミントン協会内で検討を進めているが、決まっていることは何もない状況。
- ・地域移行の主旨は何か。教職員の働き方改革なのか教育的意義なのか。
 - (市教委神馬課長補佐) 教職員の働き方改革の面もあるが、一番大切なのは、子どもたちがスポーツ・文化芸術を楽しむ機会をなくさないということ。
- ・指導者を登録したアプリなどを活用してはどうか。ニーズにあった指導者を探せるのではないか。
 - (市教委神馬課長補佐) ご意見として参考にさせていただき、今後検討したい。

(滝川陸上競技協会安楽氏)

- ・全部の部活動を地域移行するわけではないのか。
 - (市教委神馬課長補佐) 地域移行をしなくていいというわけではないが、国の方針が流動的なところもあり、動向を見ながら進めていきたい。状況によっては地域移行ができないものもあると考えている。
- ・栃木市の取組では、色々な競技の指導者を集めたスポーツクラブを作り、そこから指導者を派遣し、報酬時給1,600円を支払っているとのこと。改革推進期間の補助金を活用しているとのことだが、改革期間の間は補助金が出るということか。
 - (市教委神馬課長補佐) 国の補助金は流動的だが、今の改革推進期間の終わりとなる令和7年度までは現在の補助金が想定されるのではないかとすることを空知教育局から確認している。令和8年度からは、内容が変わる可能性があると考えている。

(滝川バレーボール協会菊田氏)

- ・国の方針の変更に伴い、地域移行の主体の考え方が変わったのか。
 - (市教委神馬課長補佐) 全国的に地域移行が進まない地域も多く、改革に関してトーンダウンした印象があり、改革も現実的なものしていくための変更と捉えているが、基本的な主体の考え方は変わっていないと考えている。

(滝川軟式野球連盟・明苑中学校校長渡辺氏)

- ・国は地域移行を進めたかったが、なかなか進まないの、当面学校にも協力してくださいという事だと思う。
- ・補助金を活用して部活動指導員を採用するところはあるが、補助金がなくなると続かない事例も多い。
 - (滝川陸上競技協会安楽氏) 栃木市では、部活動指導員の補助金がなくなった場合は市の負担になることが想定されるとのことだった。
- ・各種目団体で地域移行に意欲的なところはないのか。個人種目はやりやすいのではないのか。
 - (滝川バドミントン協会佐藤氏) バドミントンは教員も協力的だが、転勤した時のこと等も考慮し方針を考えなくてはならない。中体連の出場資格などとの兼ね合いで難しい面もある。
- ・子どもたちや指導者の確保のために、今サッカーでやろうとしている拠点校方式というのは良い方法だと思う。

(滝川バドミントン協会佐藤氏)

- ・指導者の報酬は全種目共通なのか。
 - (市教委神馬課長補佐) 移行期間の指導者への報酬は、今回支給を想定しているものが今後ベースになると思う。
- ・部活動指導員になるために必要な資格はあるのか。
 - (市教委神馬課長補佐) 必ず必要な資格はないが、大会引率も担っていただきたいので、審判や指導者の資格やライセンスなどがあった方が良く考えている。
- ・外部指導者はボランティアなのか。
 - (市教委神馬課長補佐) 来年度ソフトテニス連盟の指導者には、報酬の支払いを考えているが、部活動指導員とは違い、通年雇用ではなく随時指導に入っただく方に支払う形態を想定しているため、単価も異なる。

(滝川陸上競技協会安楽氏)

- ・現在部活動指導員は今何人いるのか。
 - (市教委神馬課長補佐) 今はまだいない。これから初めて時間給の会計年度任用職員として募集する。部活動に対する指導員のため、地域の活動となった場合は、配置できない。

(滝川バドミントン協会佐藤氏)

- ・バドミントン部を最終的に移行をしたいのか、それとも団体に対し可能な範囲でお手伝的な協力を望むのか、各学校の校長に伺いたい。
 - ※この後滝川卓球連盟経塚氏も卓球部について同じ質問
 - (江陵中学校橋本校長) バドミントン、卓球に限らず、地域移行の目的は子どもたちの活動の場をなくさないということだが、部活動の指導者である教員を確保できなくなれば、何人部員がいようと部活動は続けられない。子どもたちの活動の場を地域の人と一緒に作っていったり、人事につ

いて努力していきたい。

- （明苑中学校渡辺校長）今はやれている状況だが、教員がやりたくないといえれば強制はできない。
- （滝川卓球連盟経塚氏）卓球は今は教員が熱心してくれるのでとても感謝しており、部活動がなくなることが信じられない。今後は子どもたちの活動の場がなくならないように、地域の指導者を探したりしなければと思う。
- （江陵中学校橋本校長）指導者不足の課題の対策として拠点校部活動がある。自校に指導者がいなくても活動が成り立つ。経験不足の教員の問題の解決にも繋がるのでは。部活動指導員の任用も課題対策として同様の効果が期待されるのではないか。
- （明苑中学校渡辺校長）滝川市は街の面積が狭いのでやりやすいと思う。
- （滝川バドミントン協会佐藤氏）合同で活動する場合の費用負担は。
- （明苑中学校渡辺校長）市町をまたぐ場合は、それぞれの対応となる。部活動の場合は自治体の補助があるが、地域の活動の場合は現段階では不明。
- （開西中学校濱本校長）バドミントンについては、部活動の地域移行で子どもたちの可能性が広がることは嬉しいこと。卓球は、部活動と地域の活動両方に所属し指導を受けている生徒もいてありがたいと思っている。ソフトテニス部の初心者クラスを取組等を聞いて、子どもたちの可能性を引き出す取組やしかけをどうしていくかということ、この連絡会議で話していけたらいいと思った。

（滝川サッカー協会長田氏）

- ・地域移行を進める中での大きな課題のひとつが、学校の部活動の活動時間と地域の方が参加できる時間が異なることだと思うので、地域の方が参加できる時間に施設等が使用しやすいようになればと思う。すぐには難しいかもしれないが、例えばグラウンドの照明などハード面の整備をしていくことで、可能性が広がるのではないかなと思う。
- （市教委神馬課長補佐）ハード面の課題については、（教育委員会以外の）市の施設との兼ね合いも考慮しながら今後も引き続き検討していく。

5 その他

（事務局）

説明の中でも出てきたが、中学校の新入生入学説明会で来年度の活動について周知したいと考えている。そのために必要に応じて部会を開催する予定。部会での決定事項などを、2月頃第3目の連絡会議でご報告させていただきたい。

6 閉会

7 当日欠席者のご意見等（資料送付後、12/25意見等聴取）

（滝川音楽協会鷺尾氏）

- ・ 資料では、ソフトテニスとサッカーの取組という内容だったが、他の種目についてはどうか。
 - （市教委神馬課長補佐）段階的に部会での検討を進めたいと考えているが、次回会議までに可能な範囲で状況を確認し、部会開催が可能な種目について協議できればと思う。
- ・ 吹奏楽だと、現在は空知管内で指導に携わりたい教員も多く、早急に部会で検討しなくてはならない状況ではないと考えている。
 - （市教委神馬課長補佐）12/16の会議では、江陵中学校橋本校長から、部員が十分いる種目でも、人事異動で指導する教員がいなくなれば部活動を終了せざるを得なく、子どもたちの活動の場をなくさないために検討をしていかななくてはならない旨の発言があった。現在部活動の指導者がいる場合であっても、今後検討していかなければならないと考えている。
- ・ いきなり地域の活動にすることは難しいと思うので、拠点校方式を実施するという事は良いと思う。今後は学校の適正配置の兼ね合いも考えながら地域移行を進める必要があるのではないかな。
- ・ 地域移行とは少しずれるかもしれないが、各学校が特色ある学校づくりをし、生徒が行きたい学校を選択できるようになれば良いと考えている。選択する理由として、やりたい部活動があるということも出てくるのではないかな。
- ・ →（市教委神馬課長補佐）参考にさせていただきたいと思う。

（滝川美術音楽協会三宅氏）

- ・ 資料については特に意見や要望等はない。
- ・ 美術に関しては、指導者や地域移行のイメージが描けない。
 - （市教委神馬課長補佐）種目によって状況が異なり、例えばサッカーや野球など必要人数がいなければ成り立たない種目は、最終的には平日も含めた地域移行を考えなければならないと思うが、美術はそのような類いではないと思う。指導者が見つからない場合は、部活動として指導している教員がいなくなった時点で、部活動が終了する可能性がある。
- ・ 休日の活動だけでも良いのか。
 - （市教委神馬課長補佐）国の方針としては、まずは休日の部活動について地域移行を進めるという考えだが、種目によっては平日を含めて検討する必要がある。美術に関しては、個人でもできるので、指導者が確保できれば休日の活動のみを地域の活動とすることも可能な種目であると考えている。